３年　国語科学習指導案

授業者　大阪市立海老江西小学校　伊藤　精一郎
大阪市立南住吉小学校　岡田　勉

１　日　　時　　令和８年１１月１０日（火）第５校時（１４：００～１４：４５）

２　学年・組　　第３学年１組（海老江西）（在籍２２名）、第３学年４組（南住吉）（在籍３５名）

３　単 元 名　　きょうみをもったことを要約POPで紹介しよう
（早川典子「せっちゃくざいの今と昔」東京書籍３年下）

４　単元目標

(1)　主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。〔知識及び技能〕(１)カ

(2)　目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(１)ウ

(3)　文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(１)オ

(4)　粘り強く、自分が興味をもった内容を相手に伝わるように必要な情報を整理し、短い文章でまとめようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

５　単元間の関連と系統

前単元（２年１０月）	本単元（３年１０月）	次単元（４年１０月）
学習材 「ビーバーの大工事」 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す。	学習材 「せっちゃくざいの今と昔」 興味をもった内容について、大事な言葉や文を見つけ、要約する。	学習材 「くらしの中の和と洋」 自分の考える和室と洋室のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介する。

６　単元で取り上げる言語活動

「きょうみをもったことを要約 POP で紹介しよう」という言語活動を設定する。次の書くことの単元である「道具のひみつを伝えよう」において、本で調べたことを整理する際には、要約してまとめる力が基礎となる。道具のひみつの要約 POP を作る活動を設定することは、書くことの活動内容とつけたい力の両面をつなぐ言語活動となる。３年生の学習者にとっては、要約をすることは初めてであるため、興味をもった部分に絞って要約をすることで取り組みやすいものとし、段階的・系統的な活動設定となるようにした。

（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(１)イ）

７　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((１)カ)	①目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（C(１)ウ） ②文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもっている。（C(１)オ）	①粘り強く、自分が興味をもった内容を相手に伝わるように必要な情報を整理し、短い文章でまとめようとしている。

８　指導にあたって

【学習者観】

本単元における付けたい力を育むために、学習者は次のような学習を積み重ねてきている。４月の説明文教材の「自然のかくし絵」において、段落ごとに書かれている内容を捉え、「問い」と「答え」の関係を意識しながら読み進める学習を行った。その際、用いられている接続詞や問いかけの言葉の役割について理解を深めた。文章構成を「はじめ・中・終わり」に分けるときに、問いの文に着目することで、「中」の部分を二つの問いとそれぞれの答えが含まれていることをつかみ、より細かく段落同士のつながりを捉えることができた。また、題名につながりのある言葉や繰り返し述べられる言葉に着目しながら、段落ごとに書かれている内容を短くまとめることで、筆者の伝えたいことを表などに整理していった。このような、文章における大事な言葉に着目する学習活動が本単元につながってくる。一方で、学習者自身が文章を短くまとめる経験はまだ少ない。ここから大事な言葉や文を選び出す力を活用する学習活動（要約）へと接続させていく。

【単元観】

本学習材は、文章構成や段落のまとまりが捉えやすく、要約する言語活動に適した文章となっている。

まず、文章構成は、はじめ・中・終わりの三部構成となっている。「はじめ」では、３年生という学習者に身近なのりを例に挙げながら問いかけをし、接着剤の定義を示して話題提示を行っている。中は「せっちゃくざいの今と昔」という時の流れを観点として「接着剤の今」、「昔の接着剤が今の接着剤へと移る流れ（昔の接着剤の作られ方）」、「昔の接着剤が今も使われる理由（今も認められる昔の接着剤の良さ）」と大きく３つに分けて捉えることができる。「中１」では、体操服のゼッケンや飛行機や電車など身の回りで使われている接着剤の例を複数挙げている。現在使われている接着剤の例と利点を挙げながら、「せっちゃくざいの今」について説明している。「中２」は、接続詞「さて」を用いて話題を転換し、前段落で述べられた「工場で作られる今の接着剤」に対して、「自然にある材料から作られる昔の接着剤」について述べている。「のり」や「にかわ」を例とし、自然から生まれたものであることが分かるよう作られ方が説明される。自然で作られた接着剤の腐りやすく寒い時につかないという短所が述べられ、今の接着剤へと次第に移り変わったことが述べられる。「中３」では、前述の短所を抱える昔の接着剤も自然にあるもののよさを生かして今もなお使われており、私たちにとって安心・安全であるということが述べられている。「終わり」の部分では、まとめとして、「新しい」、「古い」接着剤のそれぞれの特徴を認め、それぞれに合った使い方をすることで暮らしを豊かにしてきたことが言及されている。

文章全体としては、筆者は今の接着剤よりも昔の接着剤に関する説明に多くが割かれている。「中」の部分では、今使われているものから昔のものへ辿っていき、今もなお使われる昔のものを最後に書いている。自然にあるものを生かした安心で安全な昔のもののよさを見つめ直し、それぞれのよさを生かして使うことの大切さが伝わってくる文章である。また、「飛行機」、「ゼッケン」、「のり」、「にかわ」など接着剤の具体例が豊富に挙げられることで学習者は理解しやすく、「もっと知りたい」、「他にはどのような道具があるのか調べたい。」という興味や学びの意欲を引き出すことができる学習材であるといえる。学習者同士で紹介し合うことで、道具についても深く知るとともに、より伝わるように要約の仕方を見直し、要約する力を高めていくようにしたい。

また、「さて」、「けれども」、「その一つが、」「もう一つが」など接続詞や指示語を含めたつなぎ言葉が用いられていることも、段落同士のつながりが捉えやすい要素の一つになっている。要約する際には、このような筆者の表現の工夫に着目しながら、自然な流れの文章になるように推敲することを意識させることにもつながる。

このように、興味をもったことについて文章を要約することに適した学習材の特徴を活かし、要約したカードを用いて伝え合う単元を構成する。

【指導観】

「せっちゃくざいの今と昔」という学習材は、これまで出会ってきた文章と比べて、問いと答えの関係の文がなく、構成も複雑となり、学習者にとって内容的にも形式的にも新しさと難しさを感じるものであると考えられる。「初めて知った」、「すごい」、「他にはどんなものがあるのか調べてみたい」などの初発の感想で抱く自分自身の興味・関心を大切にして、学習を進めていきたい。そして、指導者が学習の導入で道具のひみつの要約 POP の例を示すことで、活動の意欲を引き出して目的を持たせるとともに、要約の意味や価値について触れ、次単元で

ある「道具のひみつを伝えよう」の活動につなげていく。

また、学習者にとって要約の活動は初めてであり、次学年以降の基礎となるため、段階的・系統的な学習の習得が必要となる。３年生段階では、学習者自身が興味・関心をもったところを切り口として、要約する部分を焦点化する。しかし、興味・関心をもった部分が狭い学習者にとっては、一文を抜き出して終わってしまうことも考えられる。興味をもった理由を聞いて引き出したり、自分の興味をもったことが文章を読んだことがない人に伝わるためにはどのようなことを書く必要があるかを考えたりして、興味・関心や要約する必要のある文章の範囲を広げさせたい。

本単元では、「要約文に興味をもった内容が過不足なく表現されていること」をゴールとする。まず、１学期教材である「自然のかくし絵」の要約文を出発点として、要約文とは何か、要約するためにはどのようなことが大切かを学習者とともに考え、「興味をもったことと要約文のつながり」、「文のつながり」、「興味をもった内容を要約する上で、大事な言葉や文」などを観点とし、ルーブリックを作成する。そして、要約のために必要な「大事な言葉や文」を捉えるために、学習材の文章構成を考えていく。段落のまとまりに小見出しをつけ、「今と昔」、「材料」、「作り方」、「使われ方」、「特徴（良さ・不便さ）」などの文章の中で大事な言葉をカテゴリー化して捉えさせる。このように、単に要約のテクニックを教え込んで身につけさせるのではなく、興味・関心のある部分の要約を土台として、要約に必要なことを考えながら習熟していくことを大切にする。そして、次学年以降では、要約する範囲を広げ、目的に応じた要約へと発展させていく。

２次では提案班の授業形式を取り入れる。これは、提案を行う「提案班」と意見を言う「フロア」に分かれて学習者が司会を行って意見交流しながら進めていく授業形式である。興味・関心が近く、要約した箇所やキーワードが近い学習者同士で提案班を組み、モデルとなる要約文を作ったり、よりよい要約の仕方を見出したりすることを目的として、それぞれの班で提案・交流を行う。

提案班の形式を取ることのねらいは、学習者が主体となって目指す要約文と要約の仕方のポイントを見出すことである。見つけたポイントについてルーブリックを確認したり、反映させたりすることで、定着を図ることができる。中１、中２、中３のまとまりで範囲を区切り、それぞれの範囲の中で興味に応じた要約文を共有・検討することで、モデルとなる要約文の形が見えてくる。また、フロア側は要約する箇所を変えながら繰り返し要約に取り組み、自分の書いた要約文と比較しながら意見交流をすることができる。

個人で興味・関心に応じた要約文を書き、ペアやグループでの交流を中心として自分の納得する要約文を作る単元展開も考えられるが、要約する場所が多岐に渡るため、さまざまな要約文が出来上がり、比較することが難しい。要約が初めてとなる学習者にとっては、モデルとなる要約文とその要約の仕方の共有が大切であり、提案班の授業形式を通して取り組むことが効果的であると考えた。

３次では、道具のひみつの要約 POP を作成する際に、それぞれの学習者が自分の興味やレベルに合ったものを選ぶことができるようにするため、１次からいつでも読むことができる環境を整えておき、悩んでいる学習者にはおすすめのものをピックアップしておく。また、ヒントカードやルーブリック、壁面掲示などの環境を整えて自立的に学ぶことができるようにし、相談コーナーや机配置の工夫、作業の進捗具合を明示したボードなどで必要に応じて交流できる環境を整え協働的に学ぶことができるようにする。

また、要約する力を実感的に捉えられるようにするため、授業の終わりに要約するときのポイントやうまくいったことや悩んでいることをふりかえって書きためていく。それらを指導者が整理して全体に共有したり個別のフィードバックを返したりしながら学びを積み重ねることができるようにしたい。

９　指導と評価の計画（全１１時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	◯題名から思い浮かべることを交流する。 ◯「言葉の力」を確かめ、学習の見通しをもつ。	・知っているせっちゃくざいについて交流することで、学習材に興味・関心をもたせる。 ・つけたい力（要約する力）と学習の目的（道具のひみつを紹介する）、言語活動のルーブリックを提示し、学習の見通しをもてるようにする。	
		◯初発の感想を書き、交流する。	・「初めて知った」「意外だった」「書き方が工夫されてる」「家の人に教えたい」など具体的な観点から自分の生活経験と結びつけ、感想を書くように促す。	
	2	○文章構成を捉える。	・全文プリントを使い、初発の感想をもとに「はじめ・中・おわり」に分け、文章構成がわかるようにする。 ・つなぎ言葉やせっちゃくざいの「今・昔」などに着目して線を引くことで文章の大まかな内容を捉えることができるようにする。	［思考・判断・表現②］ 観察・ワークシート ・文章を読んで理解したことや興味をもったことなどを初発の感想に書き表すことができているかの確認。
二	3	◯文章の要点を整理する。	・ワークシートを使い、段落ごとの要点を整理する。 ・文章の主語と述語を意識するよう促し、大事な言葉や文を捉えることができるようにする。 ・「今と昔」「材料」「作り方」「使われ方」「よさ」の観点に着目することで、興味を持った観点が何かわかるようにする。	［思考・判断・表現①］ 観察・ワークシート・発言 ・叙述から、大事な言葉や文を選び出し、せっちゃくざいについて考えをもっているかの確認
	4	◯興味を持ったことをもとに要約文を書き交流する。	・初発の感想で驚いたことや面白いと思ったことなどを手掛かりにさせる。 ・興味をもった部分や要約したまとまりをもとに指導者が提案班を作っておく。	［思考・判断・表現①］ 観察・ワークシート ・自分が興味をもったことや伝えたいことを、要約文に書くことができているかの確認
	5 6	◯提案班に分かれ、発表の準備を行う。	・提案班で興味をもったところをフロアにも伝わるように生活経験をふまえた理由を書くようにする。 ・ルーブリックをふりかえりながら主語と述語、中心となる語や中心とな	［知識・技能①］ 観察・発言・ワークシート ・全文プリントの使用や、相互批評を通して、主語、述語や接続する語

			る文を確認し、要約した文を短冊などにまとめる。	句などの使われ方を見直しているかの確認
	7 8 9 本 時	○中①の段落で興味をもったことの要約文について、提案班の発表をもとに意見交流を行い、よりよい要約文を考える。 ○中②の段落で興味をもったことの要約文について、提案班の発表をもとに意見交流を行い、よりよい要約文を考える。 ○中③の段落で興味をもったことの要約文について、提案班が発表をもとに意見交流を行い、よりよい要約文を考える。	・興味をもった理由と要約文のつながりや要約文の主語と述語の関係が適切か、大事な言葉が使われているかなどについて、ルーブリックを参照させたり、検討する話題を焦点化させたりして、学習者主体でよりよい要約文となるように考えることができるようにする。 ・「今と昔」「材料」「作り方」「使われ方」「よさ」などの観点と照らし合わせることで、要約する上で大事な言葉を見つけられるようにさせる。	［主体的に学習に取り組む態度①］ 観察・発言・ワークシート ・要約した文章がうまく伝わるものになっているか、自分の文章や元の文章を見つめ直して粘り強く修正しようとしているかの確認。
三	10 11	○学習ついてふりかえり、「道具のひみつ要約 POP」を書く。 ○「道具のひみつ要約 POP」を書く。	・書いたものを保護者等に読んでもらうことで、相手・目的意識を明確にして取り組めるようにする。 ・座席配置の工夫や相談コーナー、進捗度ボード、ヒントカードなどの環境や手立てを整え、個別最適に進めていくことができるようにする。	［思考・判断・表現②］ 観察・ワークシート ・文章を読んで理解したことや興味をもったことなどを文章にして書き表すことができているかの確認。

［知識・技能①］ワークシート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・大事な言葉や主語と述語の関係に気をつけながら、必要に応じて、つなぎ言葉を使ったり、言葉をいいかえたりしながら要約文を書くことができている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・全文プリントで大事な言葉を確かめたり、学習者同士で相互批評をしたりして、自分の文章を見直すようにさせる。

［思考・判断・表現①］観察・ワークシート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・自分が興味をもった内容や伝えたい内容が、要約した文章に過不足なく書くことができている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・要約した文章に対応するように、自分が興味をもった理由や伝えたいことを詳しく書き直す。

・ルーブリックのモデル文や提案班の意見交流でまとめた要約の仕方をもとにして要約文を書く。

［思考・判断・表現②］観察・ワークシート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・文章を読んで興味をもったことや伝えたいことなどを文章にして書き表すことができている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・並行読書の本を複数用意し、自分が興味をもった本をいつでも手にできるような環境を整える。

・学習者に応じた本を教師がガイドする。

［主体的に学習に取り組む態度①］観察・ワークシート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・要約した文章がうまく伝わるものになっているか、自分の文章や元の文章を見つめ直して粘り強く修正してようとしている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・ルーブリックをもとに、要約する際の観点や書き方の基準を自分で確かめることができるようにする。

・うまくいったことや困っていることなどを振り返りに書きためると共に適切なフィードバックを受けられるようにする。

10　本時の学習

（1）本時の目標（9／11）

きょうみを持ったことをもとに文章から大事な言葉や文を見つけ、よりよい要約文や要約のしかたを考えることができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1　前時のふりかえりをする。 ・本時の学習の見通しをもつ。 （めあてのところ）	・ルーブリックをふりかえり、これまで見つけてきた要約のしかたについて確認させる。	
中③のていあんはんの発表をもとに、よりよい要約の仕方を話し合おう。		
2　中③で提案班が興味をもったところを発表する。	・大事な言葉や文を見つけながら音読をするように声掛けをする。	
3　⑨段落から⑩段落を音読する。	・提案班がどのようなことを伝えたいと思ったのか、驚いたのかなどが詳しくわかるように、段落の内容を確認させる。	
4　提案をもとに要約文を考え、要約のしかたについて全体で話し合う。 ・フロアの学習者は、個人で考え、提案班はフロアの支援と発表の準備をする。	・提案班が興味をもったことをもとに大事な言葉や文を見つけ、要約文を書くことができるようにする。困っている学習者には、提案班が見回り、相談できるようにする。 ・フロアの学習者が要約文を書くことができるように提案班に全文プリントを使いながら、声を掛け支援するように促す。	
・提案班の発表をもとに話し合う。	・ルーブリックをもとに、興味をもったことに対する大事な言葉や文や主語と述語のつながりなど、提案班の要約文のよさや課題点について話し合いが向かうようにする。 ・「今・昔・材料・作り方・使われ方・よさ」の観点を意識させたり、全文プリントや文	◆［思考・判断・表現①］観察・ノート ・中③で興味のあることが伝わるように、中心となる語や文を見つけて過不足なく要約している。

	章構成シートを参照させたりして、大事な言葉を見つけられるようにする。 ・必要に応じて、本文に戻って音読をさせて大事な言葉に着目させたり、ルーブリックを参照させたりする。また、提案班の要約文とフロアの要約文を比較したり、掲示した本文と照らし合わせ大事な言葉や省略した言葉を確認したりできるようにする。 ・提案班の考えと自分の考えを比べ、文章を付け足したり、削ったりしながら自分の考えを見つめ直させる。 ・今日の学習で学んだ要約のこつや、友だちの意見と比べて気付いたことを振り返ることができるようにする。	◆[主体的に学習に取り組む態度①]観察 ・要約した文章がうまく伝わるものになっているか、自分の文章を見つめなおして粘り強く修正しようとしている。
5　学習を振り返る。		

11　板書計画　　（※　計画段階のものですので、実際の提案班の要約文とは異なります）

